

大会趣旨

近年、ほとんどの言語聴覚士は、養成校を卒業してから臨床現場で働くこととなります。養成校の学生募集や入学後の学生教育の状況を知る立場にいと、少し先の臨床現場の言語聴覚療法部門の状況を概ね推察できるのではないかと考えますが、私はここ数年、言語聴覚士の未来について強い焦燥感を感じています。

我が国の総人口は長期の人口減少過程に入っており、特に顕著なのは15～64歳の人口の減少です。例えば18歳人口は、言語聴覚士法が制定された1997年の168万人から、2040年にはほぼ半減の88万人になると予想されています。このことは言語聴覚士のなり手が大きく減少することを意味します。優秀な人材の確保も他領域との競争が激化すると考えられます。

一方で、1997年の資格創設当初よりも、言語聴覚士を取り巻く環境は大きく変化してきています。例えば、超高齢社会の進展に伴った障害の重度化への対応や地域リハビリテーションへの介入、介護予防の重要性の高まり、災害リハビリテーション支援、放課後等デイサービスや特別支援学校・学級等における専門職としてのニーズの拡大など、幅広く言語聴覚障害のある方達へ適切に対応できる実践的な能力を身に付ける必要性はますます高まっていると考えられます。

これらの現実の中で、言語聴覚士の領域の未来を先細らせることなく、活性化させることこそが私達の責務と考えますが、そのためには少し立ち止まって一人一人が今何をすべきかを見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。

そこで本会では、私達言語聴覚士がこの領域をより魅力あるものにするために「まだまだやれる」ことは何かを提案し、次世代的に質、量ともにより一層「STの幅を拓げる」アシストをしたいと思っています。

教育講演では、名古屋大学の永田雅子先生と鶴飼リハビリテーション病院の森田秋子先生にご登壇いただきます。永田先生には、幼稚園や保育園と連携しながら、地域で発達障害のある子ども達を支える専門家として実践例を交えながらご提言いただきます。森田先生からは「STが社会に役立ち、自分の役割を拓げていける」ように、どの施設や期で働くSTも明日から使えるアイデアいっぱいの、目からウロコが落ちるようなご講演をしていただきます。

シンポジウムでは、2025年度に指定規則の改正を控える養成校から2校と、新人教育を活発に行っている2病院の先生方に、いかに言語聴覚士を増やし、育て、質を高めていくかについてご発表いただき、フロアの皆様もご一緒に考えていただきたいと思います。

市民公開講座では、皆様ご存知の藤田医科大学の稲本陽子先生から、「みんなで誤嚥性肺炎を防ぎ、最後まで楽しく食べる」ための予防的リハビリテーションの観点からご講演いただきます。

会長講演として、愛知県の ST の先生方が吃音臨床に一步踏み出せるように、あるいは「まだまだできる」と思っていただけのように、僭越ながら私の講演と、ゲストスピーカーとして環境調整の素晴らしい実践をされている先生方や保護者の方をお呼びして貴重なご報告を準備しております。

また、特に若い ST が悩みがちな高次脳機能障害について、ベテラン ST の頭の中を覗く感覚となるような「評価を一緒に学ぶ」ケースカンファレンスや未来の ST である愛知県の養成校の学生達がみんなで力を合わせて実施する学生企画、パパママになっても生き生きと働きたい、あるいは働きながら大学院に行きたいと考えている先生達の働き方をサポートするために Meet the mentor、ST としての新しい働き方を実践している先生方によるディスカッションなど、多様な企画をご用意しております。

本会が、様々な側面から ST の可能性を拓げていく一助となり、ST の将来について私の思いが杞憂であったと笑い飛ばせるのであればこんなに嬉しいことはありません。

実行委員一同、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第 18 回一般社団法人愛知県言語聴覚士会学術集会

大会長 土屋 美智子